

第 72 回愛鳥週間

平成 30 年度 野生生物保護功勞者表彰

受 賞 者 一 覧

1. 公益財団法人日本鳥類保護連盟 総裁賞（1件）

都道府県	被表彰者	功績概要
千葉県	うちやま はるお 内山 春雄	1) 国内希少種アホウドリを保全するため、鳥島における新コロニーを進めるデコイの原型を無償で製作し、現在でも不定期に行われるデコイのメンテナンスに協力している。また、小笠原群島聳島新繁殖地形成の際に使用する育雛用のハンドパペットを作り、日本のアホウドリ再導入について尽力しているほか、アメリカシロヅル、コウノトリ等、海外の保護活動で使用される様々な種のハンドパペットを納入し、世界中の鳥類保全の場で活躍している。 2) バードカービング第一人者として日本バードカービング協会を設立し、長年にわたり博物館や施設等の展示に協力したことで、剥製とは違ったバードカービングの新しい有効性を根付かせ、自然科学や鳥類学、そしてバードカービングの普及啓発に大きく貢献している。 3) バードカービングを学校教育に取り入れる、近隣小学校の依頼をきっかけに指導者を務め、子どもが楽しく安全に鳥を作れる授業が注目を集める。また、平成12年より近隣中学校でコアジサシのデコイ作りを授業で始め、学生が制作したデコイを5月にコアジサシ保護区へ設置し、現在もこの保護活動が継続して進められている。 4) 視覚障害者の方からの申し出を機会に、触れるバードカービングの研究に尽力し、鳥の基本的な知識を触察で学べるタッチカービングを発案した。鳥類学的に正確に彫られたタッチカービングにより鳥の世界を知る入口となるよう、ものさし鳥の形や大きさ、嘴の違い、羽の名称を国内外の特別支援学校やイベント等で教え、視覚障害者の方が鳥の世界を楽しめる場所を提供している。 5) 剥製が貴重で入手が困難なため、展示が不可能であったダーウィンフィンチをバードカービングで作製し、博物館等で進化論の教材として利用できるよう展示を実現させた。また、近年はハワイにのみ生息し絶滅危惧種に指定されるハワイミツスイの展示も進化の教材として必要不可欠であると考え、ハワイミツスイ類全種のカービング作成プロジェクトをハワイの博物館に提案。現在も制作中であり、今後ハワイの歴史、自然保護や進化論を教える教材として活躍することが期待される。

2. 環境大臣賞 (6 件)

都道府県	被表彰者	功績概要
新潟県	いたがき とおる 板垣 徹	1) トキ野生復帰を目指し佐渡で初回放鳥が行われた平成 20 年当時に JA 佐渡(佐渡農業協同組合)の代表理事長を務め、農薬や化学肥料を減らし、生物多様性を確保する認証米制度「朱鷺と暮らす郷」の立ち上げに尽力した。 2) 平成 16 年に地域住民をまとめ「潟上水辺の会」を立ち上げ、ビオトープ整備及び生き物調査等の体験学習や、ホタル祭り等の普及啓発イベントを行い、トキやホタルが生息する水辺環境保全の重要性の周知・普及や維持管理に多大な貢献をしている。 3) 公私ともにトキと共生する佐渡の里山環境の保全や再生に尽力した経歴から、平成 29 年より「人・トキの共生の島づくり協議会」の会長に選出され、地域住民の代表としてトキの野生復帰事業における重要な役割を担っている。
新潟県	やまざき みえこ 山崎 美枝子	1) 平成 20 年より小学校の校長として、児童とブッポウソウの保護活動に取り組み、地元と協力をして巣箱づくりや管理、定期的な繁殖調査等に尽力した。 2) 他校の児童も含めた「松之山こども野鳥の会」を設立、ブッポウソウの保護活動や探鳥会等を指導し、活動を紹介する「野鳥だより」の配布や HP に掲載をしている。また、調査研究や活動をまとめた冊子「幸せの青い鳥ブッポウソウ」を自費出版し、地域の小学校や子供たちに寄贈する等、普及啓発に貢献している。 3) ブッポウソウの飛来から巣立ちまでの 3 ヶ月に及ぶ定点調査を行い、つがい関係等繁殖生態の解明に多大な成果を上げた。
広島県	ないとう じゅんいち 内藤 順一	1) 昭和 49 年より環境庁の「緑の国勢調査」の委員となり、県内の淡水魚類や両生・爬虫類等の生息・分布調査を行った。そのデータは県のレッドデータブック等への提供や、イベント等で講演し、絶滅危惧種へ理解を深める普及啓発に貢献している。 2) 南限域に生息するカワシンジュガイの生活史を解明し、その結果から増殖手法を確立、絶滅に瀕していた状況を回復させた。また、ナゴヤダルマガエルの調査を行い、その生息史や絶滅に至った原因の解明に尽力し、福山市の生息地が埋め立てられる際、個体の回収を行い新たな生息地を指定し保護に努めた。 3) 環境省や県の保護推進委員として、カスミサンショウウオ等希少種の生息環境の造成やメンテナンス、特定外来生物の駆除作業を継続して行い巡視に尽力している。

佐賀県	なかほら まさと 中原 正登	1)平成元年より市の「トンボ王国・さが」づくり事業に協力し、市民を対象にしたトンボ観察会の講師を毎年務め、自然や生き物を大切に思う気持が育まれるよう、普及啓発に尽力している。 2)平成5年に野生生物の生息状況の調査・記録を行う目的で、高校教諭や大学教官らと「佐賀自然史研究会」を結成し、トンボや淡水魚等調査活動を続け、絶滅危惧種ベッコウトンボ・ゲンバイトンボの新生息地等、多数の調査記録や論文をまとめた、佐賀県のトンボ研究第一人者である。 3)本務である高校教諭として部活動を指導し、国内で初めてベッコウトンボの人工飼育を成功させたほか、オオクチバスの食性調査で新たな発見をする等、多大な成果を上げている。
三重県	がっこうほうじん 学校法人 すずかきょうえいがくえん 鈴鹿享栄学園 すずかこうとうがっこう 鈴鹿高等学校	1)国指定天然記念物のネコギギを保全するため、亀山市ネコギギ保護指導委員会より調査員として委嘱され、自然科学部が合宿をして夜間潜水調査を行っている。 2)亀山市と協定を結び、高等学校での前例がなかったネコギギの生息域外保全事業を開始し、飼育・繁殖を成功させ、稚魚の放流を行った。 3)鈴鹿川源流から河口までの12地点で水生生物調査を行い、得られたデータをショッピングモールでの環境展で発表したり、小学生を対象とした観察会を開く等、地域への普及啓発に取り組んでいる。
愛知県	だいたいどうとくしゅこう 大同特殊鋼 かぶしきがいしゃ 株式会社	1)平成17年より、ラムサール条約湿地であるクッチャロ湖鳥獣保護区にある社有林で「浜頓別 PROJECT」を立ち上げ、植樹活動やクマザサの除去等を通して、国際的に重要な水鳥等の生息地の保全に貢献している。 2)平成18年より北海道外の社員家族を社有林に招待し、地域住民との交流、森林散策やミズナラの植樹体験等、環境教育イベントを開き、クッチャロ湖の自然や野生生物について理解を深める機会となっている。 3)NPO 法人クッチャロ湖エコワーカーズと連携して、希少な植物が自生する区域においてブタナ等の外来種駆除活動やエコツアー等普及啓発活動にも尽力している。

3. 文部科学大臣賞（2件）

都道府県	被表彰者	功績概要
広島県	<p>がっこうほうじん 学校法人</p> <p>えいしんがくえん 盈進学園</p> <p>えいしんちゅうがくこうとうがっこう 盈進中学高等学校</p>	<p>1) 絶滅危惧種であるスイゲンゼニタナゴの保全のため、学校内に域外保全専用の飼育室を設置し、環境科学研究部を中心に25年にわたり人工授精で継代飼育を行っている。</p> <p>2) ガラス水槽での継代飼育における馴化の影響を考え、屋外飼育水槽を設け、稚魚育成試験を行い、飼育個体を地域の水系に再導入できるよう取り組みを続けている。</p> <p>3) スイゲンゼニタナゴの保全活動を広げる「スイゲンゼニタナゴを守る市民の会」立ち上げに、地域とともに協力して行った。</p>
鹿児島県	<p>きもつきちやうりつ 肝付町立</p> <p>きしら しょうがっこう 岸良小学校,</p> <p>きしら ちゅうがっこう 岸良中学校</p>	<p>1) 平成11年より校区内の岸良浜において、産卵するウミガメと卵を保護するため、6月には保護者や生徒等から構成される「ウミガメパトロール隊」を結成し、巡回及び採卵活動に取り組んでいる。また、孵化まで全生徒で観察や積算活動を行い、記録を取っている。</p> <p>2) 保護者や住民に呼びかけ、ウミガメの生態や生育環境等について学習する「ウミガメ講演会」や、採卵して、孵化場で育った子ガメの放流会を実施し、生徒や住民の保護意識の高揚を図る、普及啓発となっている。</p> <p>3) 漁業協同組合等、地域と連携を取り、「岸良浜清掃」を行っている。また、総合的な学習や生活科の題材としてウミガメ保護や岸良の環境保全を展開している。</p>

4. 林野庁長官感謝状（3件）

都道府県	被表彰者	功績概要
群馬県	<small>そりまち じつお</small> 反町 貴男	1) 平成 17 年より群馬県自然保護連盟の会員として清掃登山、観察会等、保護活動に参加し、平成 19 年からは幹事として長年の登山経験を生かし、安全に配慮した運営に取り組み、県の自然保護行政の推進に貢献している。 2) 群馬県自然保護連盟加入前より、登山仲間とともに登山道や山頂の清掃活動を積極的に行い、加入後も連盟としての清掃登山に参加し、山の保全活動に尽力している。 3) 赤城山のサクラソウ保護や谷川周辺の特定期外種オオハンゴウソウ駆除等、群馬県自然保護連盟が実施する様々な野生生物保護活動に取り組んでいる。
和歌山県	<small>はしもとしりつ</small> 橋本市立 <small>しのだしょうがっこう</small> 信太小学校	1) 学校周辺が鳥獣保護区となっており、野鳥をはじめとする野生生物との共生を目指し、広葉樹の植樹や、児童が作成した巣箱を設置し観察する等、野生生物が生きやすい環境づくりに取り組んでいる。 2) 毎年全校で愛鳥週間用ポスターを作成し、展示を行い野生生物保護を訴えている。また、敷地内の傷病鳥を保護して、児童が命の尊さを肌で感じる場となっている。 3) 福島ひまわり里親プロジェクトにおいて、ヒマワリを栽培し、野鳥が過ごしやすい環境づくりにも取り組んでいる。
兵庫県	<small>いずしじょうかまち</small> 出石城下町を <small>いかい</small> 活かす会	1) かつてコウノトリが営巣していた森井山の松の保存に尽力したが、松くい虫被害により枯れてしまい、松くい虫被害がある状況でもコウノトリが営巣できるよう、平成 21 年より地元小学校とともに「ひょうご元気松」を年間 10 本植樹している。 2) 地元小学校において、コウノトリが松に営巣していた話や松が減っている原因を話し、子どもたちに自然環境保全の大切さを伝える普及啓発に尽力している。

5. 公益財団法人日本鳥類保護連盟会長賞（3件）

都道府県	被表彰者	功績概要
宮城県	たけだ おさむ 武田 修	1) 鳥獣保護業務担当の自然保護員として、仙台市を中心とした市町村における傷病鳥獣の救護に尽力している。また、県の委嘱するアニマルレスキュー隊のボランティア活動は、傷病鳥獣の野生復帰まで一時飼養を行う等、積極的な救護活動の姿勢が他の隊員の模範となっている。 2) 平成 21 年より、野生鳥獣保護組織「ロッキーの森」を立ち上げ、幅広い経験や知識をもとに、ニホンカモシカ等の傷病鳥獣の保護及び野生復帰に尽力している。 3) 愛鳥モデル校での総合的な学習において、これまで得られた活動経験を活かし、野鳥についての講演会で講師を務める等、子どもたちの野鳥への保護管理の普及啓発に貢献している。
愛媛県	うわじましりつ 宇和島市立 たかみつしょうがっこう 高光小学校	1) アサギマダラを呼ぶために、吸蜜植物のフジバカマを校庭の栽培園に移植し、熱心に育てている。また、アサギマダラに詳しい地域の教員を招き、生態やマーキング方法を学び、実際に観察記録をつける等、インターネット上の飛来ルート調査に意欲的に参加している。 2) 学校ビオトープを完成させ、かつて生息していたメダカやセリをはじめとする、多様な生物が生息する生態系の復活に成功している。 3) 活動内容をホームページや学校だより等で発信することにより、フジバカマの栽培やアサギマダラ調査に参加する地域住民が増える等、保護活動の普及啓発に貢献している。
奈良県	ならけんこうとうがっこう 奈良県高等学校 ひじゅつ こうげい 美術・工芸 きょういくけんきゅうかい 教育研究会	1) 平成 2 年頃より、愛鳥週間用ポスター原画コンクールへの作品出品指導に毎年尽力している。 2) 平成 29 年度には、奈良県野迫川村「立里荒神鳥獣保護区」に設置された鳥類説明板の新規デザインを県内の高校生と協力して完成に向け尽力し、訪れた人の野鳥保護への意欲が醸成されることに期待されている。

6. 環境省自然環境局長賞（6件）

都道府県	被表彰者	功績概要
青森県	なりた あきら 成田 章	1) 平成2年より28年間、天然記念物に指定されている蕪島に繁殖するウミネコの繁殖生態調査や標識調査に参加し、調査をもとに保護・保全活動にも尽力した。 2) 東日本大震災以降の蕪島等の復旧工事で、ウミネコの繁殖に影響がないようにするアドバイスや、八戸市の施設展示の相談や写真提供、原稿作成、また、行政に調査報告の提供をする等貢献をしている。 3) これまでの調査や保護活動をもとに、市内の高齢者や小・中学生を対象とした講演を行う等普及啓発に努め、ウミネコや蕪島の魅力を後世に伝えていくよう尽力している。
静岡県	すずき けんじ 鈴木 健司	1) 平成8年より2年間、水窪町（現浜松市）エコミュージアム事業に関わる生物生息調査の野鳥班として尽力した。 2) 愛鳥モデル校に3年間勤務した際、馬込川河口の野鳥生息調査やテグス拾い、「愛鳥カルタ」の製作等、愛鳥活動を指導した。また、浜松野鳥の会幹事として、会報「ミコアイサ」の編集・発行や観察会講師等を務め、野鳥や自然を愛する啓発に貢献した。 3) 平成21年より桶ヶ谷沼ビジターセンターに勤務し、野鳥の調査や傷病鳥の保護活動、近隣小学校ではアカトンボ調査の講師を務める等、行政協力にも尽力している。
大阪府	たかだ ひろし 高田 博	1) 昭和58年大阪南港野鳥園の開園から現在に至るまで、シギ・チドリ類を中心とした鳥類調査、およびその餌となる干潟の生き物調査を行い、干潟の保全活動に尽力してきた。 2) 行政と協力して、野鳥園の人工干潟の順応的管理を重機や手作業で行い、絶滅危惧種を含むシギ・チドリ類やその他水鳥の生息環境として、保全した。その結果平成15年EAAFPのシギ・チドリネットワーク登録地となり、保全や普及啓発等の国内外拠点となることに貢献した。 3) 野鳥園を訪れる地元の学校や来園者に、干潟に生息する野鳥を中心とした多くの生き物の観察体験を行い、干潟の大切さを伝えている。
宮城県	にほんやちよう かい 日本野鳥の会 みやぎけんしぶ 宮城県支部	1) 支部事業として「ガン・カモ・ハクチョウ類県内一斉調査」や町に委託された志津川町イヌワシ営巣地の県指定鳥獣保護区化に関する調査等、鳥類の調査活動に尽力してきた。 2) 蒲生海岸において「コアジサシの繁殖復活作戦」を実施し、営巣繁殖地の復元のためデコイの設置等に取り組んだ。 3) 支部創立から70年以上にわたって、年間45回の探鳥会開催や小学校・公民館で行われる探鳥会等に講師派遣を行い、会員や一般の方に野鳥を親しむ機会を提供し、保護の考え方を伝える普及啓発に貢献している。

愛知県	なごやちやうるいちやうさかい 名古屋鳥類調査会	<ol style="list-style-type: none"> 1) 長年にわたり藤前干潟やその周辺で鳥類調査を実施し、干潟における膨大な野鳥データを蓄積、飛来するシギ・チドリ類の減少要因等の考察も行っている。 2) 蓄積された鳥類調査データをもとに、ラムサール条約湿地への検討が行われ、登録に貢献した。 3) 名古屋市野鳥観察館の管理運営に参画しており、来館者に水鳥の観察案内や生き物の魅力、重要性を伝えるほか、行政等が実施している藤前干潟ふれあい事業のなかで、市民参加の「渡り鳥調査隊」を行い普及啓発に尽力している。
沖縄県	かぶしきがいしゃ 株式会社とかしき	<ol style="list-style-type: none"> 1) ベニアジサシの国内最大の繁殖地と言われる渡嘉敷村チービシ 3 島において、平成 15 年より県や環境省と定期的な協議及び、専門家を招いた勉強会の場を設けながら、アジサシ類に配慮した観光利用を行っている。 2) 観光利用の当初は繁殖が見られなくなったが、自主的に立入防止柵や看板の設置等、観光客への注意喚起を行い、平成 29 年度にはベニアジサシ 1,640 巣、エリグロアジサシ 70 巣の大コロニーが確認された。

7. 公益財団法人日本鳥類保護連盟会長褒状及び会長感謝状

公益財団法人日本鳥類保護連盟会長褒状（11件）

◆個人（9件）

都道府県	被表彰者
北海道	<small>こやま のぶよし</small> 小山 信芳
群馬県	<small>ぜんによじ こう</small> 善如寺 功
埼玉県	<small>あらい けんじ</small> 新井 憲治
埼玉県	<small>やぎ たかひろ</small> 八木 賢裕
千葉県	<small>しらい よしあき</small> 白井 義昭
石川県	<small>いけだ ゆきお</small> 池田 幸男
和歌山県	<small>たいら ひらく</small> 平 拓
福岡県	<small>むらた きみこ</small> 村田 希巳子
佐賀県	<small>あおやぎ よしこ</small> 青柳 良子

◆学校（2件）

都道府県	被表彰者
富山県	<small>たかおかしりつ なかだちゆうがっこう</small> 高岡市立中田中学校
鹿児島県	<small>ひおかしりつ いさくだしょうがっこう</small> 日置市立伊作田小学校

公益財団法人日本鳥類保護連盟会長感謝状（1件）

◆団体（1件）

都道府県	被表彰者
宮城県	<small>とくていひ えいりかつどうほうじん</small> 特定非営利活動法人エコパル <small>けじょぬま</small> 化女沼

8. 環境省自然環境局長感謝状
鳥獣保護管理員等（47件）

都道府県	被表彰者	都道府県	被表彰者
北海道	伊藤 博	富山県	山下 眞佐子
北海道	牛木 信夫	石川県	湯口 藤雄
北海道	佐藤 勝治	福井県	鈴川 文夫
北海道	野々下 聡	山梨県	古屋 辰美
北海道	橋本 強志	長野県	茅野 靖昌
北海道	畑 忠幸	長野県	宮尾 源治
北海道	堀 起與賜	滋賀県	吉川 信行
青森県	吉内 隆三	奈良県	宮村 正美
青森県	坂本 次男	島根県	武田 幸夫
宮城県	狩野 善典	岡山県	赤木 晃
宮城県	三浦 治	岡山県	浅野 和敏
秋田県	加賀谷 幸男	岡山県	池本 和敏
秋田県	鈴木 先一	岡山県	松本 健吾
山形県	萬年 繁和	岡山県	山岡 宏充
埼玉県	猪俣 敏昭	山口県	西本 健一
埼玉県	大野 実	高知県	柴岡 潤
埼玉県	黒澤 千里	大分県	岡原 新制
千葉県	山本 恵一	大分県	緒方 彌三
神奈川県	亀岡 隆志	大分県	徳永 義範
新潟県	桐生 弘志	大分県	中野 政美
新潟県	武田 嘉夫	宮崎県	中武 博
富山県	上田 純一	鹿児島県	大重 満朗
富山県	川嶋 式英	鹿児島県	濱田 良人
富山県	木内 静子		